



上 京 史蹟と文化

美を巡る

北村美術館（上京区河原町通今出川下ル一筋目東入）

「数寄」といつ訓葉がある。「すき」と読み、「好き」の当て字として用いられる。それを本業とはせずに何らかの風流にたずさわる様をいい、そのような人物を「数寄者」と呼ぶ。古くは和歌や連歌を好む者を指したが、安土桃山時代に侘び茶が流行してからは茶人を称する言葉となつた。

特に明治30年代、20世紀を迎えた頃から、政財界の富裕層や官界の要人で、茶の湯をたしなむだけではなく、日本美術に造詣が深く名物道具の収集に打ち込む人たちが増え、その豊かで豪華な様が安土桃山時代の数寄者に似ることから「近代数寄者」と呼ばれるよつになつた。第一の代表者が三井物産の創始者益田孝（号は鈍翁、1848～1938）で、国宝や重要文化財を含む数々の美術工芸品を収集しそれを愛でながら再二大茶会を催したことが記録に残る。また阪急東宝グループなどの創始者小林一三（逸翁、1873～1957）や、野村證券などを創設した二代目野村徳七（1878～1945）など多くの数寄者は、収集品を逸翁美術館（大阪府池田市）、野村美術館（京都市左京区）といふ美術館の形で遺している。

北村美術館の創設者である北村謹次郎（1904～91）はまさにそうした「近代数寄者」の人。奈良県吉野郡上市町（現・吉野町）に、日本の山林王といわれた北村又左衛門（1873～1928）の次男

として生まれ、金沢の四高を経て京都帝国大学を卒業後、家業の林业を営むと共に、幼少から親しんだ茶道や美術品の収集に励んだ。

謹次郎は表千家13代家元即ち斎（1901～79）と同世代で親交も深く、自らも秀でた茶人であつただけに茶碗や茶器、掛け軸などを見る眼は厳しく、「綺麗寂びで堂上風な好み」と評された。佐竹本

三十六歌仙「紙本墨画藤原仲文像」、高麗「牡丹唐草文螺鉢経箱」、蘭渓道隆墨蹟「再留前堂首座上堂語」附・古田織部消息、与謝蕪村筆「紙本墨画淡彩鳶鳴図双幅」、益田鈍翁旧藏「織部松皮菱形手鉢」など、生涯を通じた収集品は重要文化財34点、重要美術品の点を含む1000点近くを数える。

謹次郎は1936（昭和11）年に大阪の藤田男爵家から鴨川西岸に面した約600坪を入手した。北山から比叡山、東山を望み、賀茂川と高野川が合流、江戸後期の漢詩人賴山陽（1780～1832）が「山紫に水明らかな處」と讃えた景勝の地で、京数寄屋作りの名人棟梁北村捨次郎（1904～91）に茶室と住まい（田邸の母屋）を建てさせ、「四君子苑」と名付けた。四君子とは、中国に菊の高貴、竹の剛直、梅の清冽、蘭の芳香を讃える風習があり、菊、竹、梅、蘭の頭の文字が「きたむら」と読める」とから、その品格風格にあやかることを願つて命名したのだつた。

ところが当時は第2次世界大戦の真っ最中。謹次郎は44（昭和19）年に5年間を費やして完成した数寄屋造りの住まいに入居したものの、翌年に日本が敗戦したため、進駐軍に接收、改造される被害を受けてしまつた。「母屋にペンキが塗られ、靴で踏みにじられたそつです」と美術館事務長の杉林克己氏は謹次郎の無念さに思いを馳せる。

やがて進駐軍は撤退、謹次郎の好み、美意識を十分に盛り込んで、日本山林王といわれた北村又左衛門（1873～1928）の次男

により建て替えられ、庭園は佐野越守が集めた石造美術品や樹木によつて現在の姿に生まれ変わつた。謹次郎は家族と共にここに住まいして満ち足りた日々を過ごすことが出来た。そればかりではない。逸翁美術館や野村美術館などはオーナーの遺志を伝えるために開館したのに対し、北村美術館は謹次郎が存命中に完成、自らが収集した名品を、自ら選び抜いて展示することが出来た。それらに見入る参観者の姿にうれしさを隠しきれなかつたことだろう。

現在の北村美術館。通りに面した長屋門形式の表門から入つた左手を稻穂垣に沿つて進めば母屋の表玄関。右手が茶室への露地庭で、觀音正寺の「三重石塔」や重要文化財の鴻池家伝来「六角形石灯籠（嘉禎3年～1237年）銘」などを見ながら進むと、母屋と茶室を結ぶ渡り廊下があり、目前に池泉庭園が広がる。その池に茶室が張り出し、「珍散蓮」と呼ぶ小間が客を待つ。広縁の開口部は大小に区切られ池泉庭園をさまざまな形に見せてくれる。春には桜が咲き誇り、邸内北東に根を張る樹齢550年の「巨椋」や重要文化財の宝篋印塔「鶴の塔」も見逃せない。こうした約60点の石造美術品の全ては謹次郎が吟



四君子苑



表玄関

【北村美術館】

実業家であり茶人でもあつた北村謹次郎が生涯をかけて収集した茶道具・美術品などを保存するため1975（昭和50）年に財団法人北村文化財団が設立され、京都に於ける茶道美術館の魁として77（昭和52）年6月に開館した。現館長は木下收氏。

毎年春と秋の2回に、季節にふさわしいテーマを決めて企画展を催しており、2022（令和4）年春季取合展「蒼天」を3月5日から6月12日まで開催、四君子苑（茶室と庭園）を4月12日から17日まで公開を予定している。

味したものばかりだ。

小間の奥は一段高くなつており、「看大」と名付けられた、鴨川、東山の峰々を望む広間に出入る。絞り丸太の床柱、欄間の桑、雪見障子の腰板の杉など素材の美しさに魅せられながら床の前に座れば、真正面に「大」の文字が横たわる。

かつて送り火の夜には、表千家の宗匠を招いた精靈送りが催されたことがあつた。その思い出を「大の字が点されると、軒端でその字を水指の水に映します。その水をいただくと疫病のがれのおまじないになると昔からいわれているからです。点でおえると初服は経机の上に供茶し、大の字に向つて一同合掌します」と館長の木下收氏は「茶の湯 心と美」に記している。

千宗旦に「愚者千人に讀められんよりも数寄者一人に笑はれん事を恥ずべし」という言葉が残る。この意は「センスや感性による芸術や芸道など、本物を見分ける目をもつた人はそう多くはない。一人でも鋭い視線を常に意識していたら、感性はより磨かれていくに違いない」ということだが、まさに謹次郎に当てはまるといえよう。（福井和雄）

上京の埋蔵文化財

— 幻の京都新城の遺構発見 —

はじめに

2019（令和元）年秋から翌年春まで、京都御苑内の京都仙洞御所内で消防設備の建設に伴う事前の発掘調査を公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が実施しました。今回はその調査で新しい発見があつたのでご説明します。

調査地の歴史

この地は、平安京左京一条四坊十町跡及び公家町遺跡にあたります。公家町遺跡は、豊臣秀吉により現在の京都御所周辺に公家衆を集めさせて公家屋敷街を形成したことによります。

調査地である仙洞御所は、現在の京都御苑内の東部に位置します。1627（寛永4）年に譲位

調査の経過

発掘調査は、地表下約0.2mにある明治時代の遺構面を明らかにすることから開始しました。記録を取りながら順次掘り下げていき、1627（寛永4）年以降の仙洞御所造営時の整地層^{注1}の下層で、南北方向の石垣と堀を発見しました。堀の埋土と整地層からは、屋根瓦の一部を金箔で装飾した金箔瓦が出土しています。

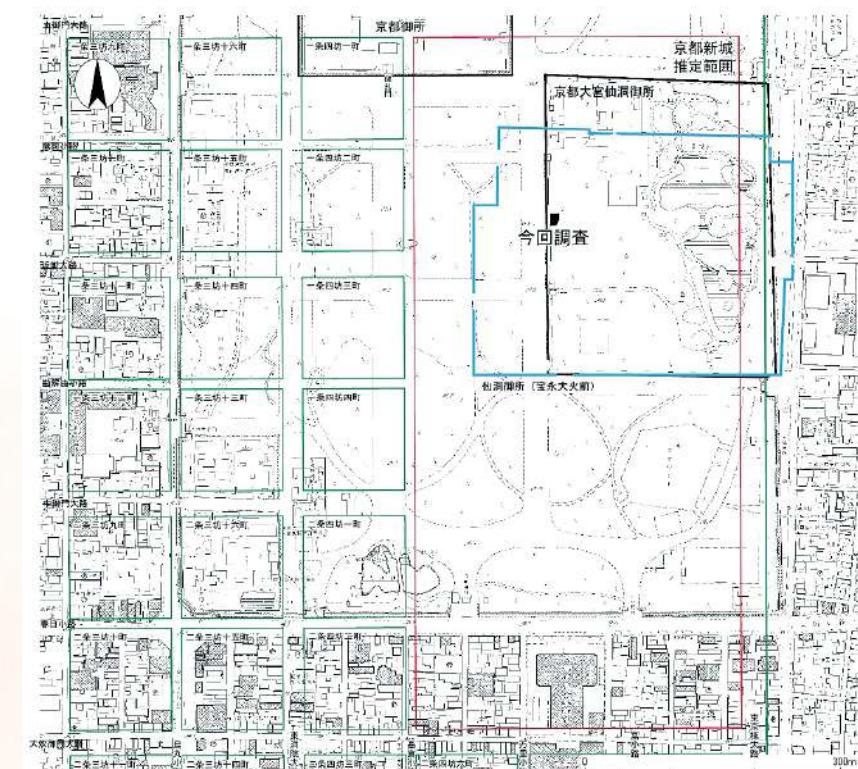


図1 調査位置図 (1 : 6,000) ※緑は平安京の街区

図1 調査位置図

石垣は地表下約2.3mの深さにあり、東側に面を揃えた南北方向の石垣を長さ約8mにわたって検出しました。石垣は、自然石の巨石を用いて野面積み^{注2}となっています。石垣本体を構築する築石は3～4段あり、遺存する高さは1.0～1.6mです。ただし、上部は崩されており、さらに2段程度の築石が積ま

れ、復元すると高さは2.3m程とみられます。築石の石材は、花崗岩・石英斑岩・チャートの3種類が使用されています。大きさは、全体として大小2種類に分かれ、



図2 調査区全域（南東から）



図3 石垣（北東から）

大きいものは長さ0.8～1.1m、小さいものは0.5～0.6mです。さらに、石垣は自然石を用いながら、よく面を整えており、肩のラインもしつかり直線に揃えられています。この石垣は全体として非常に高度な技術が用いられ、さらに丁寧に仕上げられています。この石垣は全体

これが分かります。

堀の規模は南北12m以上、成

立面^{注3}から底部まで深さ約2.3m、東西幅は5m以上あります。堀内

には、石垣を壊した際に落とされた築石が点在しており、なかには石を割る際に穿たれる矢穴があるものが1石確認できました。

金箔瓦は、堀や整地層から8点出土しました。軒丸瓦・軒平瓦・飾り瓦などですが、軒丸瓦4点中の1点は菊花文、3点は五七桐文といった豊臣家ゆかりの家紋瓦でした。分析を行った結果、出土した金箔瓦に使用された金箔の金純度は95.0%と高いことが判明しました。金箔瓦は、豊臣家関係



図4 瓦

発見した石垣と京都新城

の城郭にのみ用いられる事から、この堀と石垣は、豊臣家に關係の深い施設に伴うものであつたことが分かります。



発見した石垣と京都新城

の城郭にのみ用いられる事から、この堀と石垣は、豊臣家に關係の深い施設に伴うものであつたことが分かります。

北ブライトホール [堀川紫明]	山科ブライトホール [五条外環]
中央ブライトホール [五条東山]	伏見ブライトホール [丹波橋新堀川北]
南ブライトホール [油小路八条]	向島宇治ブライトホール [宇治槇島]
西ブライトホール [五条西大路]	大津ブライトホール [大津駅南]

家族葬専用 別邸 向島宇治 [宇治槇島] 家族葬専用 別邸 大津 [大津駅南]

お葬式 家族葬
公益社

0120-004-200

24時間365日対応、無料相談

京都 公益社

検索



南へ六町、東ハ京極ヨリ西へ三町」
『言經卿記』^{ときづねきよき}』[』]という東西約400m、南北約850mに及ぶ広大な敷地を有していました。同年9月には、秀吉・秀頼とも京都新城に移っています。1598(慶長3)年8月、秀吉が死去すると、京都新城は大坂城から移った北政所の邸宅となりました。1624(寛永元)

年に北政所が亡くなるまで、その居所として利用されています。堀内の転落石に施された矢穴の縦断面形状は、丸底・船底状を呈する「古Aタイプ」に分類されます。このタイプは1592(文禄元)年から1600(慶長5)年までの時期と推定されることも京都新城を裏付けています。

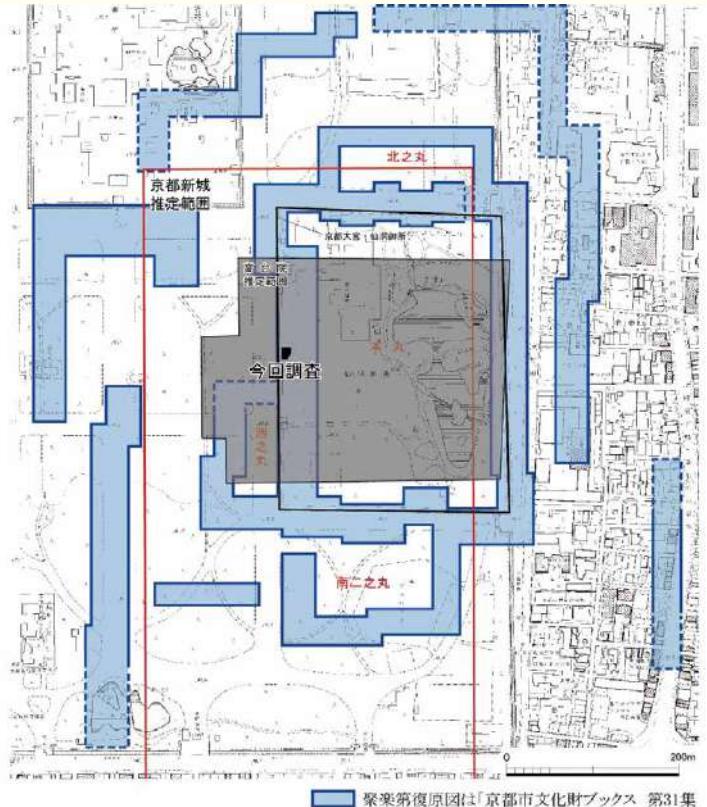


図5 聚楽第と京都新城・仙洞御所と規模比較

京都新城築城以前の豊臣家の京都における拠点であった聚楽第に關しては、近年の研究でその平面形がほぼ確定しています。寺町通りを東端の定点として、その復元図を現況図に重ねてみると、今回の石垣は本丸西堀の西側石垣であつた可能性が考えられます。

堀の延長及び規模を推定するために実施した「高精度表面波探査」のデータ解析から、堀の東西幅は約20m、南北延長は150m以上と推定され、大規模な堀であることが推測されます。

今回の石垣の発見によって、初めて京都新城の一部が確認されたことになり、その実態解明に向けての大きな定点を得たことになります。1595(文禄4)年に聚楽第を破却した後、京都における豊臣政権の拠点として京都新城が造営されたと考えられ、秀吉晩年の政権構想の再評価にも繋がる可能性があります。

京都新城の遺構を確認したこと

に於ける、宮内庁と京都市文化財保護課は保存協議を行い、その結果、宮内庁は消火設備の建設予定地を変更することになり、石垣と堀は埋め戻され保存されています。

(公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 小檜山一良)

注1 仙洞御所を造営するために盛土して地ならしした土層。
注2 自然石を加工せずに積み上げるもの。
注3 堀が作られた当時の地表面。

◆お知らせ

京都新城跡の発掘調査で出土した金箔瓦を3月11日から上京区総合庁舎2階で展示させていただきます。この金箔瓦は、近年発掘調査で出土した特に注目された遺物を展示する文化庁他主催の『発掘された日本列島2021』展に出品され東京都江戸東京博物館・苦小牧市美術博物館・群馬県立歴史博物館など全国を巡回して戻って来ました。いよいよ地元の皆様に

町名・地名は歴史のタイムカプセル — 聚楽屋敷ゆかりの町名編 ① —

京都産業大学 日本国文化研究所

上席特別客員研究員 小嶋 一郎

今回は「上京の地名・町名」シリーズ第4弾となりますが、聚楽屋敷（聚楽第に勤めるため武将たちが構えた屋敷）を持つた武将等をテーマに、現在に至るまで守られてきた町名について、ご案内します。また、取り上げたい町名が非常に多いため、今回と次回の計2回に分けてお話を進めることにいたします。

★「高台院町」と

上長者町通裏門西入
「高台院堅町」中立売通裏門下ル
「高台院」とは、豊臣秀吉の正室、北政所（おね・ねね）のことです。秀吉の菩提を弔うため、康徳禪寺を高台寺として開いたため、そう呼ばれています。足軽時代から秀吉を支え続けた、「糟糠

の妻」です。「聚楽第」の時代には、まだ高台院と呼ばれていません。やはり、江戸時代以降に、町の人々が高台院の人柄を偲んで命名したのでしょうか。現在の高台院町は、聚楽第の西の丸にあたると考えられています。聚楽第の曲輪は、縦長の長方形に、北に「北の丸」、南に「南の丸」、西に「西の丸」と、俯瞰すれば三方向に出丸があります。また、その内の「西の丸」が北政所の居所であったのでしょう。その頃、秀吉には正室以外に、側室が複数いたはずです。朝廷には後宮、江戸幕府には大奥という女の園があり、ひとつのエリアで生活していたのです。が、おそらく秀吉は、正室と側室の住むエリアを分け、正室以外は別のエリアに住まわせていました。



高台院像（重文）高台寺所蔵

柔道圓心道場

〒602-0014
京都市上京区室町通寺之内上ル下柳原北半町 210
TEL (075) 441-1968 / FAX (075) 441-2972

山崎接骨院

〒602-0898
京都市上京区烏丸通寺之内西入上ル相国寺西門前町 647
TEL (075) 451-6050 / FAX (075) 451-6051
<http://www.enshin.sakura.ne.jp/>

新・古茶道美術品

清昌堂 やました

京都本店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル

〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370

<https://seishodo.com/>
お気軽にお問い合わせください

★「吉野町」黒門通下長者町下ル



「吉野町」京菓子司「金谷正廣」

聚楽第の「黒門」があつたとされる場所です。そして、その黒門を守るかのようにすぐそばに聚楽屋敷を構えていたのは、豊臣秀長であつたという説があります。秀吉の弟で、数々の戦陣に同行し、兄の指示のもと、功を上げ、紀州を統治した後は大和一国を任せられ、権大納言という官職から「大和大納言」と呼ばれました。家族思いで、家臣からも人望厚く千利休とも親交が深かつたということです。残念ながら、病で兄より先



崇源院（江）像 養源院蔵

に亡くなりましたが、もし秀長が生きていたならば、秀次や利休が切腹を命じられることもなく、また文禄・慶長の役もなかつたのは、という人もいる程、人格者だつたのでしょう。町内の人々は、そんな秀長（大和大納言）に大和といえど、吉野、吉野の桜のように人々に好かれる人物を町名に冠したのかも知れません。ちなみにお隣の「清元町」は以前「桜町」であったという江戸時代の記録も残っています。吉野と桜、昔から日本人の好んできた組み合わせです。

女として出向き、公家として生涯を送ることになりました。波乱の人生を歩んだ江と完子、若くして散った秀勝が、ほんの短い間、暮らしたのが聚楽屋敷であつたといわれています。

秀勝と江、そして完子が仲睦まじく暮らした短い年月も、きっと宝のような思い出となつたことでしょう。肝心の「弁天町」の由来ですが、江の実家、浅井

豊臣秀勝（秀吉の甥）の聚楽屋敷があつたとされる場所です。秀勝は、秀吉の姉（後の瑞龍院）の子で、秀次の兄にあたります。秀吉は秀勝を幼少の頃から可愛がり、元服してからは、合戦に同行させますが、残念ながら文禄・慶長の役で帰らぬ人となりました。秀勝は浅井三姉妹の「江」と結婚し、娘もいました。江は秀勝亡き後、秀吉の指図により、徳川秀忠の正室として江戸に輿入れします。また娘の完子は、九條家に養

家が信仰していた「竹生島弁財天」に因んでいるのではないでしょか。屋敷神として、邸内に弁財天を祀る祠を建てていた可能性は十分にあり得ます。或いは町内に昔から「梅雨の井」のような名水がある湧き、はたまた堀が存在し、その水を守護するために祀つた弁財天が由来になつているのかもしれません。

★「弁天町」土屋町通出水上ル

★「主計町」東堀川通一条下ル
加藤主計頭清正の聚楽屋敷が

歴史文字シリーズ

紀元前3000年頃。パンのシンボルが描かれ、食料配給の割り当てが記録されている。

W 和光印刷株式会社
〒602-0012 京都・烏丸通上御靈前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

あつたという伝えから、命名され
たようです。

加藤清正といえば、豊臣秀吉の親戚筋にあたり、秀吉が去世街道を走つて行く際の合戦では、槍勵きで以て、天下統一に尽力したとされています。しかし文禄・慶長の外地での長期戦では、緒戦に勝利を積み上げたものの、やがて久戦の様相を呈し、兵糧不足の飢えや渴き、気温の寒暖差に悩まされ、疲労困憊の末、内地に戻つたとされています。伏見城が大地震で倒壊した時も、甲冑姿で、いの



一条戻橋と「主計町」

一番に太閤秀吉の下に馳せ参じたエピソードや、虎退治の武勇伝でも有名です。そんな武勇を誇る加藤清正も屋敷の場所にもこだわり、聚楽第の鬼門を守ることを示したのではないでしょうか。

★
「福島町」

千本通下長者町下ル

（五奉行）を蛇蝎の如く嫌い、関ケ原の合戦では三成達に豊臣の世は任せられないとして、東軍（徳川方）に与します。しかも合戦の一番槍で、徳川四天王の井伊勢を出し抜き、家康の感状に預かつたともいわれています。褒美として安芸三十万国を与えられますが、やがて幕府の許可なく城の改築をしたという罪（武家諸法度違反）で減封（げんぽう）の憂き目に遭いました。

加藤清正が聚楽第の東を守るなら、福島正則は西を固める、といわんばかりの位置といえます。まさに「前門の虎、後門の狼」さながらです。太閤もさぞ心強かつたことでしょう。ドラマや映画などを見ていると、秀吉がまだ足軽大将の頃、腕っぷしの強そうな少年が、「市！（福島正則）」「虎！（加藤清正）」と秀吉や妻のねねから、



福島正則肖像画
(国立国会図書館ウェブサイトより)

す。名前どおり、黒田官兵衛孝高^{よしたか}の聚楽屋敷があつたとさるることから、名づけられたようです。

「如水」^{じょすい}というのは、官兵衛が隠居後に使つた号です。天下人秀吉から、その才能が高く評価されると共に、警戒されることを憂えた官兵衛は、家督を嫡子の長政に譲り、隠居宣言をします。しかし官兵衛は隠居後も、豊臣政権の行く末を見守りつつ、関ヶ原合戦の際には、九州北部を席卷し、その名を響かせていました。また「小寺」というのは、官兵衛の父、黒田職^{もと}隆^{たか}が、主君であつた小寺政職^{こでらまさき}の養女を妻として迎えよという君命により、小寺姓となり、一時期官兵衛も「小寺」姓でしたが、やがて羽柴秀吉に仕える頃には、小寺家も没落していましたので、旧姓の黒田に戻したということです。



「如水町」
町名看板

声を掛けられるシーンをよく見ます。秀吉の天下取りを、武勇で以つて支えたツートップといつてよい存在です。秀吉とともに天下取りを夢見た少年は、秀吉亡き後、やがて官僚体制を敷く石田三成一派

★
「如水町 & 小寺町」

小寺町こらちょう

「如水」は「じよすい」と発音したいところですが、なぜか町名のは「によすい」と発音するそうで

「新式郵便」始まる(2)

等性一の4点を兼ね備えたものだと定義できる(※1)。



すべての人があれが料金で

1871年4月20日（旧暦明治4年3月1日）に開始された日本「新式郵便」。ローランド・ビルによつて1840（天保10）年5月、イギリスで近代郵便が創始されてから31年後のことだ、



前島密らが「すべての人があれが料金で平等に利用できる」制度を大いに学び、我が国に取り入れたことは、彼の自叙伝「鴻爪痕」に詳しい。

その制度は、①政府専掌による低額な全国均一料金、②国内全域の郵便集配ネットワーク、③切手などによる料金前納、④利用の平



新式郵便開始当日に、「龍文」と呼ばれる四十八文、百文、二百文、五百文の4額面の我が国最初の切手が発行された。左右2匹の龍が中央の額面を向かい合つて挟み、雷紋と七宝の輪郭文様で周りを囲つた図案で、目打(切取線)も裏糊もなく、三極和紙に刷られている。1枚の大きさは横・縦ともに19・5ミリで、現行の普通切手の横18・5ミリ、縦22・5ミリより一回り小さく、横8×縦5Ⅺ40枚で1シートを構成している。

このうち四十八文は江戸時代の九六銭勘定(※2)の名残で、実は五十文を指した。郵便料金は西京から大阪まで5匁が百文、これを超えると10匁までが百五十文と5割増しになるため、百文単位だ



龍百文1枚、龍二百文1枚、龍五百文5枚
西京明治四年八月十三日差出、「西京検査済」消印、東京宛。(創業時の西京→東京間料金は十五匁まで千四百文だが、この書状は十五匁を超えたため2通分二千八百文の料金になつてゐる。)

京の玄々堂が切手製造

これらの切手を製造したのが京都市の銅版画家、2代目玄々堂松田敦朝(1837-1903)だつた。父の初代玄々堂、松本保居(1786-1867)から銅版画を

学び、東洞院弘光寺に居を構え、幕末までは名所図などを手がけていた。その作品は今でも京都の古

書市やネットオークションで時折見ことがある。

敦朝はその手腕を買われ、18

68（明治元）年に太政官会計局（大蔵省の前身）の命を受けて二条城内に印刷所を設け、初の全国通用の政府紙幣である太政官札製造に携わった。その後、民部省から民部省札の製造を依頼され、大蔵省紙幣寮御用となつて工房揃つて東京に移住した。

太政官札（金札）、民部省札（銀冊）のいずれにも表面に「双龍」が描かれており、製造・印刷時期から考えても切手の図案はこれを参考にしたことには違ひはない。

東京から西京へ72時間

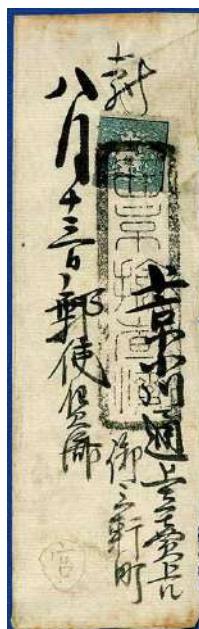
様々な準備を経て迎えた4月20日（3月1日）、書状集箱から取り出して仕訳けた郵便物を携えた飛脚が姉小路車屋町西江入町旧金座跡の駅逕司郵便役所から出発して、予定通り東京には72時間後に、大阪には7時間余後に到着した。初

めての郵便通送は無事成功したのだつた。

その道筋は、東京へは郵便役所から門前通を南へ東洞院通を東へ三條通大津傳馬所から東海道を、大阪へは東洞院通を南へ伏見傳馬所から京街道を通ることと定められた。東京や大阪からの郵便物は当然その逆路で運ばれた。

駅逕司は通達で、この道筋で飛脚が万一足痛あるいは突然の発病などにより、運送に支障が出たときは早速代わりの人足に引き継ぐよう、街道筋の宇治郡日岡村、葛野郡鹽（塩）小路村、紀伊郡東九条村など13村の庄屋・年寄に命じている（参考文献による）。

現存最古の書状は、1日に東京



龍百文に篆書「西京検査済」が押された書状（裏面）。
明治五年八月、上京区小川通上立売上ル御三軒町
の書き込みがある。

を出発した飛脚が滋賀・水口で託された大津宛の、料金の龍百文切手が貼られ、篆書体で「検査済」と書かれた大型の消印が押されたもので、東京在住の著名収集家のコレクションに収まっている。この篆書「検査済」印は、東海道筋の木曽川から西京・大阪寄りの郵便取扱所で、東京寄りでは楷書「検査済」印が使われた。ところがこの表示ではどこから差し出されたか分からぬため間もなく地名を入れた消印に改められた。

東京と西京との間はそれ以前から公用便だけでなく、民間の書状往来も盛んで、特に西陣や室町の旧家の蔵に眠っているものがあるのではないかと推測される。私はかつてある旧家の主に「お宅にそういうものはないのか」と聞いたところ、「明治なんて、そんな新しいものは分からない」と

言られて、うなつたことがある。思い当たる方は一度調べてみてはどうだろうか。

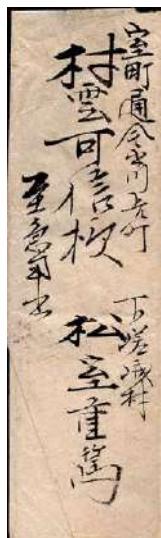
辨ヨロシカラサル集箱

こうして書状に切手という習慣がない紙片を貼つて差し出す「近代郵便」が始まつたが、切手は郵便役所か番組小学校に行かなれば入手出来なかつた。郵便役所と條上ル町の京都府御用書林（現在の官報販売所のようなもの）第11代村上勘兵衛が役割を担つた。

余談になるが、1913（大正2）年、村上勘兵衛が営業の全てを井上治作に譲渡、井上は社名を平樂寺書店として、現在でも後継者が同地で「出版物による仏教理念の啓蒙と普及」を理念に掲げ、出版事業を続けている。

郵便役所は1カ所だけ、正確には当時の郵便ボストである書状集箱は市中と伏水（伏見）を合わせて10カ所もなく、これは「數少少

ク衆人ノ辨ヨロシカラサル趣ニ相そ
聞四民聲息（利用者から余りに
も少なすぎるとの声が出た）ので、
わづか50日後の6月8日（4月21
日）に「是迄差出有之書状集メ箱
ト同様相心得書状差入レ可申候」
（これまでの書状集箱と同様に書
状を出せるように）として、室町
今出川下ル西側、千本一條西南角、
寺町丸太町下ル西側、二條室町東
へ入北東角など、市中15カ所、伏
水（伏見）2カ所に増設する「書
状集箱ノ場取増」を通達した。



下嵯峨村から室町通今出川上ル村雲可信宛
(私の曾祖父) 書状の表面

（これまでの書状集箱と同様に書状を出せるように）として、室町今出川下ル西側、千本一條西南角、寺町丸太町下ル西側、二條室町東へ入北東角など、市中15カ所、伏水（伏見）2カ所に増設する「書状集箱ノ場取増」を通達した。

さらに同年7月(6月)には「郵

便賃錢切手ノ儀小學校二於テ爲賣

渡世柄モ有之居宅掛ケ隔候テハ買入方不都合ノ向モ有之哉ニ相聞候間猶又別紙箇所々々オイテモ切手爲賣拂候條勝手次第買入可申事」として、千本上立賣上ル作庵町村松甚兵衛、など75人の名を挙げて
いる。(※3)

それまで、といつても郵便創業から2、3カ月が経つかどうかの

金本位制の条例を採用

わすかの期間たか上・下京の番組小学校での切手売捌きは不都合があるため取り止め、新たに市中各所に変えることにしたのだつた。早急な変更は、番組小学校での切手売捌きが失敗に終わつたことを物語つているようだ。

つき補助単位は銭（円の100分の1）、厘（錢の10分の1）を定めた。

200里が四百文、200里超（200里半）が五百文の5段階に分けられた。この時、東京、西京、大阪の各府内市内間の郵便は四十八文で配達されることになり、先に書いた四十八文切手が用いられた。またこ

金本位制の条例を採用

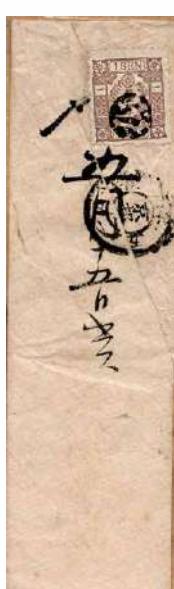
つき補助単位は銭（円の100分の1）、厘（錢の10分の1）を定めた。これを受けて72年1月（明治4年12月）から万延二分判・一分銀・寛永通寶・天保通寶などの旧貨幣と新錢貨との、翌年5月（明治5年4月）から旧藩札・太政官札・民部省札と新紙幣（明治通宝）との交換が開始された。

200里が四百文、200里超へ
が五百文の5段階に分けられた。
この時、東京、西京、大阪の各府
内市内間の郵便は四十八文で配達
されることになり、先に書いた四
十八文切手が用いられた。またこ
の時に日誌や認可新聞などの低額
送達制度も始まった。

市内郵便は48文で配達

「新式郵便」開始から2カ月余後の同年6月27日（5月10日）には、明治新政府によつて「新貨条例」が制定された。後に第8・17代内閣総理大臣を務めた、時の大蔵大輔（のち民部大輔・参議を兼任）おおくましげのぶの主導で、金本位制を採用、貨幣単位は両を廢して円（日1両を所

眞位に向を廢して曰（曰に向を新
1円とする）として、十進法に基



書状の裏面、「桜」1銭に京都局の記号印
「タ一」が押されている

市内郵便は48文で配達

旧暦明治4年が年末に迫った12月5日、「郵便規則」が改正され、郵便路線は大阪からは大阪から長崎まで延長、郵便料金も郵便局間から距離制に変わった。重量は2匁（直後に4匁に変更）となり、宛先までの距離が25里まで百文、50里超（50里が二百文、50里超）

1872年4月(明治5年2月)には新貨条例に伴つて切手の額面が、四十八文は半錢、百文は二百文は貳錢にせん、五百文は五錢と、文から錢位に変更され、九六錢勘定は廢止された。「龍文」を「龍錢」に差替えただけで、額面を左右2匹の龍が挟み、雷紋と七宝の輪郭文様で周りを囲つた図案はそのまま。用紙は再使用を防ぐため

に、四周围に目打が入れられ、『破れやすい用紙』に刷られた。一部裏糊がつけられたものが存在する。

龍から桜に図案を変更



明治期の郵便作業を描いた日本画家・柴田真哉の絵図「郵便取扱の図」(以下は2021年4月発行の「切手趣味週間・郵便創業150年」切手の1種)

ここで再び登場するのが切手の製造を請け負っていた松田敦朝。目打を入れるには①シートの両端を一直線に植えた目打針(和櫛をイメージしてもらいたい)で横縦一列ずつ、②コの字型に植えた目打針で1段ずつ、③シート全てを一度に、打ち込む方法があるが、松田にはそうした知識がなく、当初は切手1枚に合わせた土台に10数本の目打針を植えて、1枚ずつ

手作業で打ち込むという作業を続けた。これは余りにも効率が悪いので、やがて①に改良された。

ところで「龍文」切手も「龍錢」

切手にも国名や郵便料金前払い証紙であることを示す表示がなく、切手としての体裁を欠いていた。こ

のため旧暦明治5年8月から算用数字の額面と、「郵便切手」と表示した新切手の発行が始まった。国名表示はなく十六花弁の菊花紋章が入れられた。このシリーズは切手の四周に桜の花が描かれていることから「桜」切手と呼ばれている。

西陣局の誕生はまだ先

ここまでお読みいただいて、『新上京の昔ばなし』なのに上京の話が出てこないのはどうして」と思われる方があるだろうが、そ

のとおり。書状集箱や切手売捌き所を除けば、上京と「近代郵便」

のかかわりは現在の西陣郵便局が

1885(明治18)年7月16日、今出川通大宮西入ル元北小路町に

元北小路町郵便支局として開設され、同年8月1日、今出川支局に改称するとともに為替・貯金の取扱も開始してからのこと。

上京区の郵便局についてはいずれ紹介したいと思っている。

(※1) 郵政博物館論文「日本における近代郵便の成立過程—公用通信インフラによる郵便ネットワークの形成」井上卓朗

(※2) 当時の慣習で九十六文=百文として計算していた。こよりとじの1銭の固まりが96枚であっても100枚=百文として通用した。

(※3) 他に現在の上京区域では、油小路元誓願寺下ル町西村卯兵衛、上立賣小川東入谷利兵衛、下立賣千本東へ入澤田茂兵衛、一條松屋町西へ入八島新助、西堀川上長者町下ル田川四郎兵衛、室町上長者町下ル敷内與七、油小路中立賣下ル西村七三郎、一條新町西へ入伊藤半兵衛、西堀川丸太町下ル宇野定七、出水黒門角上坂庄次郎、室町丸太町上木村萬平、出町今出川上ル町伊藤半兵衛などの名前が記録されている。

参考文献

「京都府百年の資料」七建設交通編
「ジャパンスタンプオーナークション」誌181号
「JPSオークション」誌532号

(福井和雄)

京都市指定

水を大切に... (24時間・年中無休)



水道・下水道修繕工事(空調)・井戸ポンプ設備・建物リフォーム

大西工業株式会社

〒602-8072 京・上京区中長者町通新町西入 TEL.(075)451-3123 FAX.(075)432-2874

0120-350672

消防設備全般

「みんなで花を咲かそう」 活動ボランティア募集

上京区総合庁舎前の花壇は、ボランティアの皆さんに、毎日水やりや手入れをしていただいている。また、年に2回、季節の花々に植え替える「一斉植替え」を行っています。11月には、お揃いのエプロンを着用しビオラに植替えを行いました。

興味をお持ちの方は電話、FAX又は、窓口(1階①番窓口)にてお申込みください。

対象:区内在住の18歳以上の方(高校生除く)

問合せ:上京区役所地域力推進室(まちづくり推進担当)

TEL 075-441-5040 FAX 075-441-2895



※撮影時ののみマスクを外しています。

京都市歴史資料館 開館40周年記念特別展

「歴史資料館がある場所—御所の東の今と昔—」

◎会期(予定)

前期:令和4年6月4日(土)~8月14日(日)

後期:令和4年8月20日(土)~10月23日(日)

◎展示内容

御所の東南にある歴史資料館の周辺地域は、平安京の時代から明治時代に至るまで、幾度となく京都の歴史上でも注目を集める場所でした。

開館40周年を記念して、歴史資料館を含む「御所の東」の歴史について、館蔵資料や各遺跡からの出土遺物をもとに、平安時代から現代までをご紹介します。

表紙写真

妙覺寺(京都市上京区上御靈前通小川東入下清蔵町135(新町通鞍馬口下ル)):桜

撮影:写真家 水野克比古氏

妙覺寺は室町時代、1378(永和4)年に四条大宮に創建。1483(文明15)年には足利義尚の命により二条衣棚に移転し、戦国時代は妙顯寺と同様に大規模な敷地をもっていました。国宝「洛中洛外図屏風」にもその広大な建物が描かれています。信長の時代までは13代將軍足利義輝、織田信長、伊達政宗など様々な人物の宿所になっており、千利休による茶会も開かれておりました。中でも織田信長の一番の定宿であり、信長が京都に来た20数回のうち18回の宿泊をここ妙覺寺でしています。信長のイメージである本能寺には実は3回しか宿泊していません。その3回目に本能寺の変が起ったのです。本能寺の変の際、妙覺寺には信長の長男信忠が宿泊していました。1583(天正11)年に豊臣秀吉の洛中整理令により現在地へ移転。現在も国指定重要文化財の孟蘭盆御書や、狩野派が扉絵を手かけた華芳堂(京都府指定有形文化財)、趣の異なる3つの庭園、さらに2019(令和元)年、重要文化財に指定された木造日蓮坐像など数々の見どころがあります。

【広告主募集中】本誌に広告を掲載しませんか?

「上京・史蹟と文化」に有料広告の掲載を希望する広告主を募集します。商品のPRや企業のイメージアップに、ぜひご検討ください。
問合せ:上京区役所地域力推進室(まちづくり推進担当) TEL 075-441-5040 FAX 075-441-2895

元祖
ばたん鍋と京料理
京・上御靈前烏丸西
四一・〇六二〇代

元祖
烟かく

京都に生まれて五世紀
虎とらや

www.toraya-group.co.jp

売買や相続、建築・リフォーム、残置処分にいたるまで

住まいにまつわるお困りごとはお任せください。

寺社仏閣の借地管理等で培った豊富な経験でお手伝いいたします。



いにしえの町を、想う。
玄武管財

602-0898 京都市上京区相国寺門前町647番地1

075-411-1214

info@kyoto-genbu.co.jp http://kyoto-genbu.co.jp/



また、上京区役所のホームページで御覧いただけます。



- 神学部
- 商学部
- スポーツ健康学部
- 文学部
- 政策学部
- 心理学部
- 社会学部
- 文化情報学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- 法学部
- 理工学部
- グローバル地域文化学部
- 経済学部
- 生命医科学部



同志社大学
Doshisha University

<https://www.doshisha.ac.jp>



お問合せ先 同志社大学 広報部 広報課 TEL : (075) 251-3120

京都人さえもが恋するホテル。

BRIGHTON KYOTO

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411（代）FAX.075-431-2360
<https://www.brightonhotels.co.jp/kyoto/>

(東洞院通)
大丸さん北隣のよろず屋 四条店では
時計・貴金属
高価買取実施中!
鑑定書なしでも高額査定!

グループ創業70年の信用と安心

ブランド品 (株)よろず屋
販売・買取

京都府公安委員会許可 古物商 第11061号

ATF全国質屋
ブランド品協会 認定店

本店 地下鉄「今出川駅(6番出口)」隣 ☎ 0120-25-0700
団10:00~19:00[土曜は18:00迄] 団日曜・祝日 **P10台有**

四条店 地下鉄「四条駅(20番出口)」すぐ Tel 075-241-7900
団10:00~19:00 大丸京都店 北隣(東洞院通) **年中無休**

*FGA(英国宝石学協会)認定資格者がおります。*公共機関の鑑定上もとめています。

「たのんでよかった！」

皆様のそのひとことを目指した
住まいづくりを心がけております。



西陣の大工さん
みずほ工務店

TEL.075-204-8283

<http://www.mizuho-koumu.com>

京都市上京区上立売通淨福寺西入上る真倉町752

本田味噌本店
京都府上京区室町通一茶五五八

<http://www.honda-miso.co.jp>



西京白味噌®



山田松香木店
香木・薰香・匂香

〒602-8014

京都府京都市上京区勘解由小路町164

TEL(075)441-1694

FAX(075)441-1124



MALEBRANCHE
京都 北山

洋菓子

マールブランシュ 京都 北山本店

〒603-8053 京都市北区北山通植物園北山門前
TEL (075)722-3399 · FAX (075)702-9440
9:00AM-6:00PM 年中無休(喫茶10:00AM-6:00PM)
www.malebranche.co.jp

商品予約専用フリーダイヤル **0120-668-399**

単なるデリバリーカンパニーではなく、
人や企業の信頼を結ぶ運送会社です
どんな内容もまずご相談を!

商品のお預かりから梱包作業、配送まで

封入作業・ダイレクトメール(DM)配送・郵便出荷代行

機密書類の溶解処理

ルート配送・チャーター便(軽貨物~4t車まで)

引越サービス

近運貨二第186号(社) 京都府トラック協会会員

株式会社 デリバリーサービス

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル大文字町238番地

TEL(075)662-8255 / FAX(075)662-8257

<https://delivery-service.jp/>

デリバリーサービス
株式会社

デリバリー^{サービス}
20000584